

天然繊維の活用しかない

大正紡績



近藤取締役

いモノ作り”を基本理念に据える同社。得意のオーガニックコットンに加え、ウールや麻、そのほかの植物原料繊維の活用を加速する考えだ。

同社はこれまでも多彩な

オーガニック素材や「洛陽

染」など天然染色素材の開

発と販売を推進し、今やオ

ーガニック素材企業の代名

詞的存在である。この功績

により今年、毎日ファッション

大賞も受賞した。素材

メーカーの受賞は特筆に値

する。同社では、今後も環

境に配慮した素材展開を拡大する考えだ。

しかも2009年は国連が定めた「天然繊維の国際年」。近藤取締役は「これもからめて、幸せを呼ぶオーガニック」をテーマに大々的なプロモーションを行う」考えだ。来年の「JFWジャパン・クリエーション」春夏展でも、この方針に沿った出展を予定する。

「(合繊原料である)石油は有限資源である以上、(環境を守りながら)今後世界の繊維需要増加に対応するには天然繊維の活用しかない」。大正紡績の近藤一取締役はこう話す。

水、空気、土壌を汚さない。原料繊維でも、ストーリー性を生かした開発が強みである。

とくに「北緯45度から南緯35度の広い地域で収穫可能な綿花は、天然繊維でも最も重要な素材」と位置づける。そのうえで、新たにバナナ繊維の活用を検討中だ。土中廃棄による環境破壊が問題となるバナナの茎部分をリサイクルするもので、やはり環境配慮を重視した素材だ。綿やウールをベース素材に、バナナ繊維との複合で素材開発を進める考え。こういった植物